



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/04/29

あっさり黙示録 #60

血に染まった王服で到来する地上再臨のキリスト

黙示録 19 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。あっさり黙示録、今日でとうとう 60 回目になりました。しかも、その内容は地上再臨のイエス・キリストについてです。

黙示録 19 章

13 その方（地上再臨するイエス・キリスト）は**血に染まった衣をまとい、その名は「神のことば」と呼ばれていた。**

地上再臨のイエス・キリストは3つのタイトル、3種類の名前で呼ばれていますが、今日紹介するのは2つ目です。この方は「神のことば」と呼ばれていた。

もし私が黙りこくって、ただ画面に映っているだけなら、私が何を考えているか、皆さんにはさっぱり分からないと思います。人の心の中、外面からは見えない心の内側でどんなことを考えているかは、言葉にして初めて相手に伝わるんですね。

それと同じように、人は神の思いを具現化した、人となられたイエス・キリストを通して、目に見えない神を知ることができるようになった。イエス・キリストは目に見えない神の本心をすべて、包み隠すことなく完全に表すことができた方。その意味で、イエスは**神のことば**なんです。

神のことばとなるために、この方は人となりました。

すなわち、「神のことば」と呼ばれていたというのは、「地上再臨のキリストは人間だ」ということを強調していて、人となられた神の御子イエス・キリストが地上再臨されるというわけです。

ところで、地上再臨されるイエス・キリストの衣装は非常に目を引くものでした。これを書いているヨハネが、思わずギョツとしながら書き留めたんですね。その方は**血に染まった衣をまとっている**。真っ赤なコスチューム、それだけでも目立つのに、その赤は何かの染料ではなく、**血で染まっていた**。

この**血**は誰の血なんでしょうか。約 2000 年前、イエスが罪人の赦しのために十字架に掛かって流してくださった、あの血なんでしょうか。

違うんです。この血は敵の血なんです。

この個所はエルサレムに地上再臨しているキリストの描写なのですが、キリストはエルサレムの前に、既に別の場所に地上再臨して、そこで一戦交えているんですね。その時に敵の返り血を浴びて、真っ赤に染め上げられた衣を着たまま、エルサレムに現れたんです。

返り血を浴びて真っ赤になるくらい大量の血が流された大きな戦いは、どこであったのでしょうか。旧約聖書の**イザヤ書**に詳しく預言されています。

イザヤ書 63 章

1 「エドムから来るこの方はだれだろう。ボツラから深紅の衣を着て来る方は。その装いには威光があり、大いなる力をもって進んで来る。」

エドムは現ヨルダンの南部地方、死海からアカバ湾にかけての地域です。昔ここにエドム人の国がありました。エドムはエサウの子孫です。エドムには赤いという意味もあります。ボツラから深紅の衣を着て来るというのは、赤い所から赤い服を着て来るということで、意味の語呂合わせになってるんですね。

ボツラには要塞という意味があります。天然の要塞。自然の形で敵が攻め込み難いボツラはエドムの首都で、現在のペトラだと言われています。ペトラはギリシア語で崖。見渡す限り荒野の山の崖。その崖の奥まった所に、岩をくりぬいて掘り刻んで造った人工の町があります。私も2回ほど見学しましたが、息を呑むような圧巻の場所です。聖地旅行に行く方は、ぜひオプションでここに行かれたらいいと思います。

艱難時代は7年続きますが、中間点になった時、イスラエルはいったん滅びます。イスラエルにいると身の危険があるので、ほとんどのユダヤ人がいなくなるからです。7年間の中間3年半の時、反キリストがエルサレム神殿に現れ、「私が神だ!」と名乗り、ユダヤ人に大変な弾圧を加えるんですね。ここにいたらだれも助からないということで、取る物も取り敢えずみんな逃げる。

その逃げた先がヨルダン南部地方のボツラ、現在のペトラです。ペトラで大勢のユダヤ人が共同体を築いて生活するのですが、艱難時代末期になると、反キリストは彼らを全滅させるために反キリスト軍を送ります。ユダヤ人共同体は反キリスト軍の前でなすすべもなく、風前の灯となるのですが、その反キリスト軍を壊滅させるために、まずキリストが地上再臨するんですね。

イザヤ書 63 章

3 「わたしは怒って彼ら（反キリスト軍）を踏み、憤って彼ら（反キリスト軍）を踏みにじった。彼らの血の滴りはわたしの衣にはねかかり、わたしの装いをすっかり汚してしまった。」

彼らの血の滴りはわたしの衣にはねかかり、わたしの装いをすっかり汚してしまっただ。これが深紅の衣になった理由です。反キリスト軍の全滅戦争の返り血を浴びて、地上再臨のキリストの衣服は、すっかり真っ赤に染め上げられてしまった。そのキリストがエルサレムに地上再臨するんですね。

4 復讐の日（艱難時代の最終日・地上再臨の日）がわたしの心のうちにあり、わたしの贖いの年が来たからだ。

九死に一生を得たイスラエル人たちは、その3日前に既にイエス・キリストを信じています。自分たちを救うために来られたキリスト、自分たちが今まで拒んで来た、十字架に掛けたあのイエスこそはイスラエルのメシアだったことが分かり、彼らは一人ひとり嘆き、悔い改め、イエスを礼拝するのです。

地上再臨の目的は、単に反キリスト軍を打ち負かすだけでなく、イスラエルの霊的回復のためでもあるんですね。

次は3つ目のお名前について解説しますので、ぜひお付き合いください。
チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。
皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

☆引用；日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017